

JOSO

常総市 市勢要覧
JOSO City Guide



2 常総市の10年

4 常総市 未来への財産

- 4 常総フィルムコミッション
- 5 坂野家住宅
- 6 水海道千姫まつりと弘経寺
- 7 郷土が生んだ偉人 長塚節
- 8 開業100年 関東鉄道常総線
- 9 200年続く伝統の技 大塚戸の綱火

10 常総市総合計画

- 10 01 | 健やかで幸福を分かち合うまちづくり
- 12 02 | 豊かな人間性を育むまちづくり
- 14 03 | 安全で安らぎのあるまちづくり
- 16 04 | 潤いのある快適なまちづくり
- 18 05 | 豊かにのびるまちづくり
- 20 06 | 市民と歩むまちづくり

22 We Love JOSO.
～地域に流れる郷土愛～

27 市民の声を行政へ 常総市議会

28 まちの歳時記

30 資料編



誰もが住みたくなるまち 『じょうそう』を目指して

本市は、平成18年1月1日に水海道市と石下町が合併して、本年度で10周年を迎えることができました。

この間、二市町が培ってきた歴史的・文化的な特徴を生かしながら一体感の醸成の実現のために、議員各位、関係機関各位のご協力を得ながら、歴代市長とともに努めてまいりました。

現在、地方自治体を取り巻く環境は、人口減少・超高齢化などにより、ますます厳しさを増しております。このような中、本市では、平成27年9月10日の関東・東北豪雨により、市域の3分の1にあたる約40平方キロメートルが浸水し、死者・負傷者などの人的被害や住宅被害をはじめ、農業・商業・工業などに甚大な被害を受けました。水害発生以来、国や県とともに総力をあげ、災害からの復旧・復興に取り組んでいるところでございます。

本年の3月には関係各位のご尽力により、将来の本市の発展に向けた力強い復興計画が策定されました。今後この計画に沿って、一刻も早く活気に満ちた常総をとりもどしながら、市民の皆さまが安心して暮らせるような施策の確立と実行に全力を傾注する覚悟でございます。

今回発刊の市勢要覧では、わがまち常総の10年のあゆみ・文化と歴史・常総ふるさと大使からのメッセージ・未来のビジョンについて紹介しております。また、別冊版として、災害の体験と災害から得た教訓を後世に残すとともに、今後のまちづくりに役立てるために、「平成27年9月 関東・東北豪雨 常総市災害記録 忘れない9.10」も発刊いたしました。

結びに、市勢要覧の刊行にあたりご協力いただいた皆さまならびに関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。



常総市長
高杉 徹

平成28年3月



ANNIVERSARY

2012 [平成24年]

[3月]
緊急速報メールサービスを開始（災害・避難情報を携帯電話利用者に提供）

[7月]
市長選挙（第4代市長：高杉徹氏が当選）

2013 [平成25年]

[1月]
市役所日曜日開庁（午前中）を開始
水海道庁舎：第1・3日曜
石下庁舎：第2・4日曜

[1月]
市立図書館の開館時刻を1時間早める

[3月]
市総合計画後期基本計画を策定

[4月]
市役所水海道庁舎解体工事を開始



[6月]
市内でのロケが1000作品達成



[10月]
石下西中学校校舎が完成



[10月]
市役所本庁舎建設工事を開始

2014 [平成26年]

[4月]
常総ほっとサタデー教室を開始



[11月]
市役所本庁舎が開庁



2015 [平成27年]

[4月]
市内全域対象に防災行政無線を供用開始

[4月]
市の社会体育施設に指定管理者制度を導入

[4月]
吉野公園をリニューアルオープン



[4月]
市議会議員選挙（22人無投票）

[5月]
市役所議会棟が開庁

[6月]
圏央道常総IC周辺整備事業（アグリサイエンスパレー）3者協定に調印



[9月]
常総プレミアム商品券販売



[9月]
関東・東北豪雨により、鬼怒川が溢水、決壊し市域の3分の1が浸水（溢水：若宮戸、決壊：三坂町）



合併10周年を市民の皆さまと共に祝い、全国にPRする情報発信ツールとするため、「合併10周年記念ロゴマーク」を作成しました。

JOSO 10 YEARS

常総市の10年

2005 [平成17年]

[3月]
水海道市・石下町
合併調印式



2006 [平成18年]

[1月]
常総市が誕生
(初代市長：遠藤利氏)
(1月1日：市役所・石下支
所開庁式)



[2月]
常総市誕生記念式典を挙
行(2月8日：市民会館)



[3月]
新「行政改革大綱と集中改
革プラン」を策定

2007 [平成19年]

[4月]
市地域包括支援センターを
開設(場所：第2分庁舎)

[4月]
合併後初の市長選挙・市議
会議員選挙(定数26人)
(第2代市長：杉田光良氏が
当選)

2008 [平成20年]

[4月]
市総合計画を策定

[4月]
市内の上下水道料金を統一
(旧水海道市の料金体系に一
元化)

[4月]
石下総合運動公園石下球場
竣工(人工芝野球場)



[5月]
市教育支援センターを開設
(場所：地域交流センター北
側)

[6月]
杉田光良市長が逝去

[8月]
市長選挙(第3代市長：長
谷川典子氏が無投票当選)

2009 [平成21年]

[4月]
市補助金制度を変更(元気
のみなもと補助金制度を導
入)

[6月]
市役所でパスポート申請・
交付業務を開始

[10月]
予約型乗合交通を運行開始



[11月]
常総ふるさと大使制度を導
入(各界の著名人8人を任
命)

2010 [平成22年]

[4月]
市税・保険料のコンビニエ
ンスストア納付を開始

[4月]
石下地区の民間児童クラブ
利用料を無料化

[8月]
新石下庁舎がオープン(暮
らしの窓口センター、都市
建設部を配置)
(印鑑証明書・住民票の自
動交付機も設置)



[10月]
すくすく医療費助成対象を
拡大(対象者を12歳児まで
に)

[11月]
常総プレミアム商品券発売

2011 [平成23年]

[3月]
東日本大震災により市役所
水海道庁舎・石下西中学校・
吉野公園などが甚大な被害
(水海道庁舎の業務を一部移
転。石下西中は授業をつく
ば市の旧上郷高校で実施)



[4月]
市議会議員選挙(定数が
22人に削減)

[4月]
市立図書館の祝日閉館を開
始

[11月]
放射性物質測定検査を開始
(給食センターと保育所の
給食用食材)

[11月]
都市計画道路石下駅中沼線
「石下橋」開通



[11月]
常総プレミアム商品券発売

[12月]
市立図書館の閉館時刻を1
時間延長

常総市 未来への財産

本市には、自然、歴史、文化など多くの分野で、県内外に誇れる素晴らしい宝がたくさんあります。坂野家住宅、長塚節生家など、未来へ残したい地元の財産を紹介します。



常総フィルムコミッション

映画「土」主演
女優 風見章子さん



本市で撮影された映画「土」は、私のデビュー作です。10代の頃の作品ですが、撮影当時は監督さんに厳しく演技指導していただいたことを思い出します。この作品に出演できた経験が、今の私につながっているとと言えます。また、地元のかたがたにも本当にお世話になりました。映画やドラマのロケ地として、常総フィルムコミッションが今後ますます発展することを願っています。



2003(平成15)年に設立された常総フィルムコミッション。映画やテレビドラマなどのロケを誘致し、年間100本前後が市内で撮影されています。2013(平成25)年に撮影1,000本に到達しましたが、2015(平成27)年9月の水害で一時的に足踏みました。フィルムコミッションの再開とともに、撮影誘致は順調に回復してきています。市が市内ロケ第1号と認定しているのは、本市出身の歌人・小説家、長塚節原作の映画「土」【1939(昭和14)年】

累計1,100作品以上。 観光振興の新しい風

本市は都心からも近く、美しい田園風景や鬼怒川、小貝川、菅生沼などの自然豊かな土地です。さらに坂野家住宅や二水会館などの歴史遺産から青少年の家や市民福祉センターふれあい館などの市の施設までさまざまな撮影に対応できる施設が数多く存在しているので、毎年多くの映画やドラマのロケ地として活用されています。また、常総フィルムコミッション設立以来、なくて

はならない重要な存在となっているのが、映画やドラマなどの撮影に協力するエキストラです。市民に広くエキストラへの登録を呼びかけ、それに応じた人々が映画やドラマにエキストラとして出演し作品を盛り上げています。ロケーションを誘致する常総フィルムコミッションとそれを支える市民の協力が、本市を舞台とした数々の素晴らしい作品が生まれる原動力となっています。

エキストラ
大川 武彦さん

演劇の経験を生かしたくてエキストラに応募しました。普段の生活では経験することのできない体験ができたり、新しい友達ができたりと世界が広がりました。今では大切な趣味の一つになっています。



エキストラ
篠崎 敏子さん

刑事ドラマの刑事や医者、学校の先生、時代劇など非日常のさまざまな経験ができるのが一番の魅力ですね。2009年に始めてから42回ほど映画やドラマに出演しました。皆さんもぜひ挑戦してみませんか？





水海道風土博物館 坂野家住宅

坂野家住宅は1968(昭和43)年、主屋と表門が国の重要文化財に指定されました。屋敷面積は約1ヘクタール。1989(平成元)年、坂野家から市へ寄贈され「水海道風土博物館」となりました。

江戸中期の豪農屋敷 映画やドラマの撮影も盛ん

屋敷面積約1ヘクタール、周辺の山林を含めると野球場2つ分程の広大な敷地面積を誇る坂野家住宅(大生郷町)。大生郷地区に土着したのは約500年前。近世、地域をまとめる豪農でした。本来は武家屋敷に設けられるという表門(薬医門)からも、坂野家の格式の高さがしのべれます。豪壮な造りの総茅葺の主屋は、土間部、座敷部、居室部に分かれ、「部戸」や欄間など意匠を凝らした細工が施され、当時の豪農

住宅の貴重な遺例となっています。主屋西側の瀟洒な造りの書院「月波楼」は、江戸後期から明治にかけて文人墨客のサロンとして利用され、優れた作品の創作活動や交流の場となりました。さらに屋敷を取り巻く雑木林や竹林、梅林、復元された中庭などは、四季折々の美しい里山の風景を楽しむことができます。現在は映画やドラマのロケ地としても使われるなど多くの人に親しまれるスポットになっています。



当住宅は当時の生活をうかがい知ることのできる貴重な建物です。本市の宝として大切に受け継いでいきたいですね。また、より多くの人に知ってもらうためにもイベントなども開催していきたいと思っています。

水海道風土博物館館長 坂野昇さん



水海道千姫まつりと弘経寺



観光大使として、いろいろな場所で本市の魅力をアピールし、子どもからお年寄りまでさまざまな年代の方々と接することができました。そのふれあいの中で、私たちも成長することができたと思います。千姫のお墓にも行って、その波乱万丈の生い立ちも学びました。



「千姫さま御一行 常総ご回遊」での千姫さま

第15代観光大使
千姫さま
松崎美紀さん
砂長美和さん
高野万千佳さん



くぎょうじ 弘経寺ゆかりの千姫 華やかな時代絵巻

水海道千姫まつりは、江戸幕府を開いた徳川家康の孫娘である「千姫」の墓が弘経寺にあることを御縁に、まちの活性化を目指して2001（平成13）年に始まりました。常総市の春を告げるイベントとして、桜の花が咲き誇る4月上旬に行われますが、これは千姫さまの誕生日が4月11日であることに因んでいます。まつりの一番のイベントは「千姫さま」に扮した観光大使がまちをパレードする「千姫さま御一行常総ご回遊」です。優雅な調べから勇壮な雰囲気へと変調するオリジナ

ル曲「千姫はなものがたり」にのせて、時代衣装を身にまとった御一行が、華やかに水海道地区の大通りを練り歩きます。

千姫さまの菩提寺でもある弘経寺（豊岡町）は戦国時代に焼失していますが、1629（寛永6）年に千姫の寄進により再建されています。境内で千姫まつりと同時に開催される天樹祭は、寺宝として大切に保管される千姫さま遺愛の品々の展示をはじめ、野点茶会やお香教室なども行われ、満開の桜とともに訪れる人を迎えています。



郷土が生んだ偉人 長塚節



菅笠にわらじという軽装での節の旅姿の像は、市内3カ所に設置されています。

没後100年 心に生き続ける地域の誇り

長塚節は1879（明治12）年に石下町国生（国生）の豪農の長男として誕生し、3歳の頃には百人一首を暗唱するなど才能を発揮。恵まれた家庭環境にありながら、病弱のため中学を中退し、療養生活を送る中で正岡子規に出会い、文学的才能を開花させました。

菅笠、わらじという軽装で全国を旅し、

自然や植物をこよなく愛した節ならではの写実的な歌を数多く残しました。小説「土」は、当時の農村を写実的に描写し、日本近代文学の傑作と評され、代表作となりました。節は36歳の時、旅先で生涯を閉じ、2015（平成27）年に没後100年を迎えました。生家には、直筆の書などが展示され、ガイドによる案内が好評です。



本市では、旧石下町時代から行政と市民が一体となって、故郷の文人・長塚節を顕彰し、その偉業を後世に伝えるため、さまざまな取り組みを行ってきました。「長塚節文学賞」もその一環として、1996（平成8）年から始まりました。

長塚節は私が短歌を始めた小学6年生の頃からの憧れであり、ずっと研究を続ける生きがいになっています。今の目標は、小・中学生にも理解しやすい「土」の執筆と、長塚節と3人の女性についてまとめることです。



案内ガイド
長塚節研究会常任理事
飯塚知子さん

開業100年 関東鉄道常総線



常総線は関東鉄道(本社土浦市)が運行する鉄道路線の一つ。営業区間は取手ー下館駅間51.1㎞で、うち複線区間は取手ー水海道駅間17.5㎞。全25駅中14駅が無人。1913(大正2)年開業で、2013(平成25)年11月1日に100年を迎えました。全線非電化で、年間900万人以上の輸送人員数を維持しています。戦前は砂利の運搬なども行い、1974(昭和49)年まで貨物を取り扱いました。左は1965～70(昭和40～45)年ごろの水海道駅

住民の皆さまの移動手段として利用していただくだけでなく、さらに親しみをもって活用していただけるよう、ビール列車やプライダルトレインなど楽しいイベントも企画しています。ぜひご利用下さい!



水海道駅管区駅長
宮田隆一さん

地域と共に歩み100年 次の100年へ新たな歴史を刻み続ける

市の東部を南北に縦断し、田園地帯の中を走る関東鉄道常総線の姿は、地域住民だけでなく、多くの鉄道ファンを魅了しています。また、行政や民間団体と共に、「関鉄ビール列車」、「駅からウォーク」など多彩なイベントを企画するなど、地域に密着した鉄道として沿線地域の活性化に貢献しています。「お客さまとの会話やふれあいがあり、地域の皆さまとさまざまな関わりを持てるのが一番の喜びです」と話す水海

道駅長の宮田隆一さんの言葉からも常総線が住民に愛され、共に歩んできたことが伝わってきます。

「町内に駅があることが私たちの誇りです」と話すのは「北水海道ふれあい会」の皆さん。ボランティアで北水海道駅前の花壇の整備を続け、駅周辺を花で明るくしています。開業から100年を迎えた常総線。今後も地域住民と共に歩み続けることでしょう。



北水海道ふれあい会の皆さん

200年続く伝統の技「大塚戸の綱火」



伝統を守り続けて200年 地域の誇りを後世につなぐ

大塚戸の綱火は地域が誇る貴重な伝統芸能です。地域の結びつきやシンボルとして末長く継承していきたいですね。今後は若い人の育成に力を注いでいきたいと思っています。

大塚戸芸能保存会
事務局長 横島 充さん
会長 横島 進さん

「一言願えば、良いことにつけ、良からぬことにつけ、よく聞き分けて御利益を授けてくれる神」と言われ、万能神として広く信仰を集める一言主神社（大塚戸町）。9月には秋季例大祭として例祭と奉祝祭が開催され、奉祝祭に行われるのが「大塚戸の綱火」です。綱火は三番叟、仕掛け万燈、当日の芸題の3部で行われ、保存会のメンバーによって、8月の第1日曜日から約

1か月をかけて準備されます。さまざまな仕掛けが施されたあやつり人形はメンバーの手作り。当日は7人が力を合わせ人形を操作するため、息が合わないとスムーズな動きができないとあって練習にも余念がありません。保存会のメンバーは30代から80代までの約30人。地域の誇り・綱火を保存し、後世に伝えるため、一丸となっています。



常総市 総合計画

後期基本計画

The comprehensive programs in JOSO

本市は首都近郊にありながら、水と緑に囲まれ、希少な動植物の生息する美しいまちです。誰もが住みたくなるまち『じょうそう』をめざし、まちの活力、将来性、安全安心、心豊かな暮らしの実現に向けて6つの分野における重点施策を掲げています。



●子育て支援センター
子育て支援センターでは、小学校就学前の在宅の親子やこれから親になる人を対象に、子育てについての情報を交換したり、親子が一緒に遊んだり気軽に交流できる場所を提供しています。

健やかで幸福を 分かち合うまちづくり

〔保健・医療・福祉の充実〕



医療・福祉



市民が相互に支え合い 健康に安心して暮らせる制度を進めています

少子高齢化や核家族化が進み、結婚・出産に対する意識も変化し続けている現代社会において、人々の暮らしはますます多様化しています。本市では赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる立場のすべての市民が等しく安らぎのある暮らしを実感できるよう、保健、医療、福祉の充実をはかっています。

安心して子どもを産み育てるための母子保健、子育て世帯のニーズにこたえる保育環境の整備を進め、地域全体で子育

てを支援するまちを目指しています。一方で、本市の高齢者人口は全人口の27%（平成27年7月1日現在）を占め、特に75歳以上の増加が著しい状況です。高齢者の生活上の問題を解決していくために、地域と行政の協働による地域福祉力の強化にも努めています。

生活習慣病予防対策の推進、医療環境や緊急医療体制の充実など、誰もが健康で生きがいを持てるまちづくりを目指しています。



医療・福祉

健やかで幸福を分かち合うまちづくり



●在宅介護サービス

訪問介護サービスでは、ホームヘルパーが居宅を訪問し、食事や掃除などの生活援助をしています。



●バリアフリー環境

常総市役所の本庁舎はバリアフリー環境も充実しています。

①ヘルスアップ教室では、生活習慣病予防を目的に楽しく運動習慣を継続させるため実施しています。②疾病の早期発見のため行っている健康診断。③肩・腰・膝の痛みがある人などを対象に、理学療法士が体にあった運動方法を具体的にアドバイスしています。④きぬ医師会病院では中学生までを対象に、かぜや腹痛などの急性疾患をはじめ、さまざまな疾患に幅広く対応できる小児科外来を開設しています。



教育・文化

豊かな人間性を 育むまちづくり

[生涯学習の推進]



● 理数教育の強化

市では大学や博物館などとの連携や小学校教科担任制の導入による理数教育の強化に取り組んでいます。写真は絹西小学校の理科授業の様子。



学校教育や生涯学習を充実し、次世代を担う青少年の育成と学習環境を整備

さまざまな資源を持つ本市のさらなる地域文化の向上を目指し、市民一人ひとりの豊かな人間性を育てていく環境を整えています。就学前教育や小学校教科担任制の導入による理数教育の強化、外国語教育の指導体制の充実などによる学力の向上を目指した学校教育の充実。「放課後子ども総合プラン」に沿った青少年育成事業など、家庭、学校、地域が連携して、明日を担う子どもたちを見守りながら育成していく環境づくりを進めてい

ます。

また市民の生涯を通じた学習活動を支えるためにさまざまな機会を提供し、自主的な学習活動を支援しています。スポーツ団体と連携したスポーツ活動の普及や、地域に根ざした芸術・文化活動の活発化を図るとともに、そうした事業への市民の参画、文化活動を通じた幅広い交流活動などを促進し、本市固有の伝統や歴史的文化遺産の保全と継承をしています。



豊かな人間性を育むまちづくり



● **坂野家住宅**
郷土遺産の保全と継承にも取り組んでいます。



● **水海道小学校の鼓笛隊**
鼓笛パレードは1960(昭和35)年から続く同小学校の伝統行事。毎年10月に開かれる市の文化祭で市街地をパレードします。

①市立図書館は小中学校と連携して児童生徒の読書活動の活発化を図り、市の読書文化の向上に取り組んでいます。②市では体育・保健体育科教育、運動部活動などを充実させ、心身ともに健康な児童生徒の育成に取り組んでいます。③長塚節文学賞の開催など、文化活動の充実や地域固有の文化イベントの情報発信にも力を入れています。④ハンドボール教室をはじめとする各種スポーツ教室ならびにスポーツイベントを通じて、誰もがスポーツに親しむ生涯スポーツ社会の実現に取り組んでいます。

安全で安らぎのある まちづくり

[生活環境の充実]



● AED 啓発普及活動

市では救急救命士の養成や救急医療機関との連携を強化するとともに、市民の普通救命講習会の開催などを通して地域全体の救護体制を構築しています。写真は自動体外式除細動器(AED)使用方法の啓発普及活動。



災害に強く安全なまち 自然と調和した安らぎを感じる暮らし

防災、防犯、事故を未然に防ぐための危機管理意識を高く持ち、市民が安心して暮らせるまちづくりを目指しています。2015（平成27）年9月の関東・東北豪雨や東日本大震災から学んだ災害時における初動・避難勧告など、行動規定の明確化と情報提供を徹底。総合的なハザードマップの整備や避難訓練、2015（平成27）年4月から運用開始した防災行政無線の有効利用を図るなど、常に災害に備える防災対策の強化を実現していきます。

消防・救急の充実については、常備消防および消防団の装備や体制の充実を図りながら、火災予防・防火意識を啓発。市民による応急救護など、大きな災害にも対応できる全市民的な救急体制の強化に努めます。交通安全施設の整備や道路交通環境の改善など、交通安全対策の充実を推進。廃棄物の減量化やリサイクルの普及、環境美化活動など、安全で自然と調和した生活環境が実感できるまちづくりを進めていきます。



安全で安らぎのあるまちづくり



交通安全キャンペーン
交通事故の減少を図るため、警察や交通安全団体などと連携し、さまざまな交通安全活動に取り組んでいます。



防災無線室
市役所にある、防災無線室から防災行政情報が発信されます。

①2014（平成26）年11月に開庁した市役所の本庁舎は地上3階建て。延べ床面積4,200平方メートルで、震災を教訓に高い耐震性を確保し、ユニバーサルデザインを採用しました。太陽光発電や自然採光など環境に配慮し、1階に窓口部門を集め、幼児が遊べるキッズスペースや授乳室を設置するなど市民の要望に応えました。②今後は防災行政無線や防災情報メールの配信などを含め、全市民的な防災連絡網の整備の推進が必要です。③地域の治安を維持するためには、地域コミュニティ組織と連携した防犯パトロールの実施が不可欠です。写真は松の木安全会の防犯パトロール。



潤いのある快適な まちづくり

環境保全

[都市基盤の充実]

◆きぬ総合公園

健康な市民生活を支える自然豊かな公園。1年中スポーツが楽しめる。敷地内にきぬ温水プール、水海道総合体育館、きぬテニスコート、水海道球場、きぬサブグラウンドなどがあります。



自然との共存を考えた秩序ある整備をすすめ 快適な都市環境をつくっていきます

菅生沼や大生郷天満宮周辺など、本市には貴重な自然が多く残されており、河川池沼の水辺は生きものの生息空間として重要な役割を果たしています。これら水と緑の自然環境を守り育てるために、さまざまな環境保全活動にとりくみ、人と自然がともに栄えるまちづくりを推進しています。

2010(平成22)年3月には「常総市都市計画マスタープラン」を策定し、長期的な都市基盤の整備と都市づくりの指針を定め

ました。これに基づいて秩序ある整備をかりながら、都市計画事業や市街地整備事業を推進。子育て世代や高齢者対応を重視した市営住宅の改善や住環境を整備するなど、定住促進に効果的な住宅環境の整備も進めていきます。

2016(平成28)年度の圏央道の開通に伴い、常総インターチェンジ周辺地域整備事業を推進し、市の基幹産業である農業の六次産業化による産業用地の創出や雇用の促進を図ります。



潤いのある快適なまちづくり



● 通学路整備

通学路整備にも力を入れています。写真はすでに工事が終了した石下中学校(本石下)西側の歩道。



● ほたるの誘い

水海道あすなるの里では、ホタル観賞会を毎年7月に開催。ホタルは同施設の近くの小学校の児童が幼虫を飼育し、6月に放流しています。

①コハクチョウの飛来地で、野鳥観察などで人気の菅生沼。②若者や子育て世代、高齢者の居住ニーズに対応した市営住宅も整備されています。写真は八間堀団地(水海道橋本町)。③予約型乗り合いタクシー「ふれあい号」。移動手段を持たない市民のために2009(平成21)年10月にスタートしました。



豊かにのびる まちづくり

農業・商業・工業 [産業の振興]

●常総きぬ川花火大会

毎年8月末、鬼怒川河畔で開かれる花火大会。1949（昭和24）年、戦没者追悼と戦後復興を願って始めました。全国の花火競技会で賞を獲得した県内外の花火製造会社や、日本煙火芸術協会員らが参加し、職人たちの技術の粋を堪能できる大会となっています。





付加価値を生み出す産業で 魅力ある地方都市をアピールします

本市産業の基盤をなす農業の振興は重要な課題です。生産基盤の整備と農地の保全、担い手の育成と営農体制の整備を進めるとともに、ブランド戦略と連携した新たな販売戦略の展開を推進します。商業・工業においても新たな事業分野への取り組みなど、地域資源を最大限に活用しながら経営安定を促進していきます。

豊かな自然と歴史的価値の高い施設を有している本市は、県内でいち早く2003

(平成15)年にフィルムコミッションを組織化しました。映画・テレビ・コマーシャル撮影などの受け入れ態勢を整え、県内随一のロケ地として活動しています。豊かな自然や歴史的文化遺産など、さまざまな観光資源と首都圏から近い利便性を活かして、より多くの誘致を図ります。また「常総きぬ川花火大会」や「祇園まつり」など、全国的にも評価されている各種イベントの体制を強化し、観光の振興を図っていきます。



豊かにのびるまちづくり



●水海道祇園祭

毎年7月に開催。関東鉄道常総線水海道駅近くの中心市街地のみこしや山車が多数集まります。



●石下祇園まつり

毎年7月、石下地区中心市街地の目抜き通りで開かれます。みこしや山車が多数繰り出す迫力あるまつり。

①市内の最近の映画・ドラマなどの撮影数は年間約100本で、県内ロケの約4分の1を占めます。②圏央道「つくば中央ICー境古河IC」間は2016(平成28)年度開通予定。③市内を走る関東鉄道常総線。④坂手町の「染色村」では、染色家たちが友禅染や小紋染などの技法を用い、個性ある着物やインテリアなどを製作しています。ここで生み出された作品は「水海道染色村・きぬの染」と名付けられ、県の郷土工芸品に指定されています。



市民と歩む まちづくり

コミュニティ活動 [まちづくり推進力の強化]

●ふるさとの秋まつり

水海道あすなるの里（大塚戸町）で毎年開かれる秋恒例の「ふるさとの秋まつり」には、家族連れなどの市民が繰り出し、農産物直売会やバンド演奏など多彩な催しを楽しんでいます。





情報の交流と共有化をすすめ、 市民満足度の高い行政、地域協働のまちへ

市民協働のまちづくりを推進するため、本市では市民が市政に参画する機会を積極的に創出してきました。今後さらに広報・広聴の機会を拡大しながら多くの市民の方と直接話し合う機会の充実を図り、これまで以上に市民ニーズを的確に把握して施策に反映していくことが必要です。「市民協働スタートブック」に基づき、市民が行政のパートナーとして主体的にまちづくりに参画し、行政にはない多様性・柔軟性・先駆性・専門性な

どの特性をいかした公共サービスの提供を可能にする体制の確立を目指します。

また本市は県内で2番目に外国人の人口が多く、ブラジル人がその過半数を占めています。そのため市役所窓口でのポルトガル語対応をはじめ、文書・ホームページの多言語化、小・中学校への教育補助員の配置なども行っています。今後さらに活動を広め、国際化に対応するまちづくりを強化します。



市民と歩むまちづくり



● **筑波大学との官学連携**
2012(平成24)年に筑波大と官学連携の協定を締結、幅広い分野で連携・協力を進めています。



● **行政サービスの向上**
市では申請や手続きの簡素化・待ち時間の短縮など市民目線に立ったサービスの向上を図っています。

①市では、まちづくりを支える基礎となるコミュニティ活動の活性化のための支援を行っています。写真は将門まつり。②市民文化祭の市民音楽会で美しい歌声を披露する市民。③本市のPRのため各種イベントで活躍する本市のマスコットキャラクター「千姫ちゃま」と観光大使「千姫さま」。

地域に流れる郷土愛

We Love JOSO

本市にゆかりがあり、さまざまな分野で活躍している
「常総ふるさと大使」が、本市の魅力を語ります。

女優
——
羽田美智子さん



水害に負けず 住みやすいまちに 復興してほしい

好きな場所は一言主神社、水海道天満宮です。豊水橋からの鬼怒川の眺め、筑波山の眺めがお気に入りの景色です。実家近くの店のあんぱんと焼きそばが大好きです。8月下旬の常総きぬ川花火大会は夏の最後のイベントなので、「もうすぐ学校が始まる」という気持ちと、夏の終わりの寂しさを感じていたのを思い出します。

鬼怒川決壊の被害に負けずに、住みやすいまちに復興してほしいと願っています。私はドラマや映画への出演ももちろんですが、文化的な番組も大好きなので、そういった番組への出演も増やしていきたいと思っています。

プロフィール

旧水海道市出身。1988（昭和63）年デビュー。94年映画「RAMPO」でエランドール賞新人賞、第18回日本アカデミー賞新人俳優賞受賞。95年映画「人でなしの恋」で日本アカデミー賞優秀主演女優賞を受賞。映画、ドラマ、CMを中心に活躍中。



子どもたちの可能性を広げる素晴らしい環境

3歳で柔道を始め、6年生の時に県大会で個人チャンピオンになりました。尊敬できる恩師に出会い、仲間と共に大好きな柔道に打ち込めたのも、スポーツが盛んでスポーツへの理解がある素晴らしい環境だったからこそ。

中学からは柔道の強豪校国士館に進んだので、地元で過ごしたのは小学校時代までですが、自分にとっては大切なふるさとです。今後も子どもたちの多様な可能性を広げる場所であり続けてほしいと願っています。

柔道 鈴木桂治さん



プロフィール

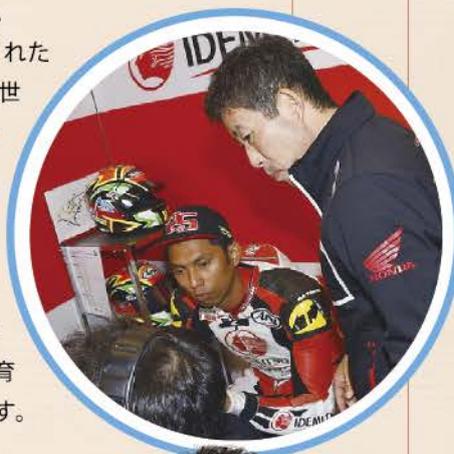
旧石下町出身。2004（平成16）年アテネ五輪男子柔道100キロ超級優勝。2008（平成20）年北京五輪100キロ級にも出場した。世界選手権は2003（平成15）年に無差別級、2005（平成17）年に100キロ級で優勝。五輪と世界選手権で重量級ただ1人の3階級制覇を達成した。現在は国士館大体育学部准教授兼男子柔道部監督。



地元の応援が力になって支えられた選手生活

小さい頃からバイクには興味がありましたが、当時は学校の規制が厳しくて、オートバイに本格的に乗り出したのは高校を卒業してから。結婚するまでは実家暮らしで、レースやバイクいじりに明け暮れていました。地元の祭仲間、宝町の若連が熱い応援をしてくれたのが励みになりましたね。今でも時々集まって親交を深めています。

僕を支えてくれた家族や友人、お世話になってきた会社への恩返しがこれからの仕事。アジアの若いライダーを、世界に通用する一流に育てていきたいです。



元レーシングライダー

プロフィール

旧水海道市出身。元オートバイ・ロードレーサー、全日本チャンピオン。レース世界選手権最高峰クラス日本人最多勝利記録保持者。2001（平成13）年に第一線を退いた後はHONDAのチーム監督などを務め、オートバイレースの世界を盛り上げている。

岡田忠之さん





柔道のまち、 スポーツのまちとして 発展を期待

父親が柔道の指導者をしていたので、5歳から柔道を始めました。6歳の時に大会で優勝し金メダルをもらった時、とてもうれしかったのをよく覚えています。家の近くの鬼怒川河川敷で母親に自転車で伴走してもらいながら毎日タイヤ引きのトレーニングをしたのもいい思い出です。今後は指導者として世界を目指す選手を育てていきたいですね。常総市が柔道のまちとして、今後ますます発展していくために貢献したいと思っています。



プロフィール

旧石下町出身。2008（平成20）年北京五輪男子柔道81kg級出場。5歳で柔道を始める。鈴木桂治氏と同じ市体育協会石下柔道部のOB。世界選手権に計6度出場し、2005（平成17）年と2011（平成23）年の世界選手権で、それぞれ81kg級、90kg級で銅メダルを獲得。

柔道 —— 小野 卓志さん

交通の利便性が 格段にアップ 試合の移動も楽々！

常総はゴルファーにとって恵まれた環境。全国のトーナメントに参戦するのに、羽田空港への電車移動も便利です。東京駅へも車で約40分。圏央道のインターチェンジができればますますアクセスが良くなります。スポーツ医学に基づいたトレーニングに通う筑波大も近く、生活のベースがここで本当に助かっています。

将来的には地元とゴルフ界への感謝を込めて、アカデミーの設立を考えています。オリンピックに出場できるようなジュニアを、故郷から輩出していきたいですね。



プロゴルファー

細川 和彦さん

プロフィール

旧水海道市出身。中学3年の秋にゴルフと出会い、高校ゴルフ部から頭角を現し、20代で2試合連続優勝を達成。夏場の強さに定評があり、夏男の異名をとる。



極めて都会に近い田舎 このギャップが いいんだよね～

茨城の玄関口といえば常磐自動車道なら谷和原インター、つくばエクスプレス(TX)利用なら守谷。でもそれは茨城が都会に見せる顔。まずは守谷から常総線に乗り換えてみてください。そのギャップがすごいです。車窓に広がる田園風景、いきなりのローカル感、これが本当の茨城。日本三大天満宮のひとつ大生郷天満宮や、江戸時代にタイムスリップしたような坂野家住宅など、広い空と地平線の中に、昔と今、都会と田舎がクロスするおもしろさがあります。

「リアル茨城の玄関口」それがジョーソー♪ JOSO !



プロフィール

常総市在住。旧石下町出身。茨城県をユニークに紹介するインターネットの人気サイト『茨城王(イバラキング)』を開設後、2004(平成16)年に初の著書『いばらぎじゃなくていばらき』を発表。県内でベストセラーに。他に『続いばらぎじゃなくていばらき』『ごじゃっペディア～楽しく学ぶ茨城弁』。講演、音楽活動なども行う。



作家・ラッパー —— 青木智也さん

行きたい道 を示してく れた緑ゆた かな故郷

家が鬼怒川の近くの河川敷にはたくさんの思い出があります。それはもうお笑いのネタの宝庫。出身地や方言をコンプレックスに感じた時期もあったけれど、面白がってくれる人がいたおかげでコンプレックスが消えました。

今では東京にいても気持ちはどっぷり茨城県。故郷で経験したすべてのことに、ちゃんと意味があったんだな、と感謝しています。だから、とぐい茨城弁で常総のごど、いづまでもいづまでもPR頑張っかん！！

プロフィール

旧石下町出身。2003(平成15)年にお笑い芸人となり、茨城弁を駆使して繰り出す茨城の自慢ネタで人気に。結婚後は同じお笑い芸人で夫の松丘慎吾氏とのコンビ「チャイム」でも活躍。コンビ名の名付け親はピートたけしさん。



お笑い芸人 —— 赤プルさん



たいせつな故郷を
ますます元気に
私は歌で応援します！

デビューして間もなく常総ふるさと大使を委嘱いただき、さまざまなイベントやメディアで、歌手活動とともに常総市のPRに励んでいます。2015（平成27）年6月には、念願だった大好きな地域交流センター（豊田城）でチャリティコンサートを、2016（平成28）年2月にはつくば市北条で常総市災害支援コンサートを開催できました。家族がいて友達がいる常総はとても大切な場所。これまでたくさんの方に助けていただいたことに感謝して、

今度は私が、人生の応援歌で皆さんに元気を届けたいと思っています。これからも地元情報をどんどん発信していきますね！



プロフィール
常総市在住。つくば市出身。2013（平成25）年9月、キングレコードからCD「人生舞台」でデビュー。チャリティコンサートを開くなど歌で地元へ貢献。



演歌歌手
——
北条 きよ美さん

日本古来の伝統芸
吟詠を通して
常総市の魅力を広めます

常総市の魅力を歌詞に盛り込んだ曲「常総音頭いやどうも」を作詞作曲し、歌っています。常総市には大生郷天満宮、一言主神社など立派な神社もありますし、石下大橋から見る筑波山の眺めは最高ですね。

今後の常総市には「安全」をアピールし続けることが大切です。鬼怒川決壊によって大きな被害を受けましたが、市民の皆さんが常総市を離れることがないようにしたい。私は日本古来の伝統芸である吟詠を通して、さまざまなイベントに参加する機会が多くありますので、微力ながら常総市の良いところを、いろんな形で広めていきたいと思っています。

プロフィール
常総市在住。北海道出身。1972（昭和47）年に吟詠を始め、その後吟詠の全国コンクールで優勝するなどして実力を高める。心韻流嶺煌吟詠会会長



吟詠家
——
池田 嶺煌さん

市民の声を行政へ

常総市議会



議長

常総市議会
風野 芳之議長

市民の声を市政に届け 誇りのもてる住みたいまちの実現へ

常総市議会は、より多くの市民の声をスピーディーに市政に反映させることを目的に、通年議会制度を導入したほか、情報発信を積極的に推進するため、本会議のインターネット配信（ライブ・録画）を開始するなど、議会改革を行っています。

地方分権の進展により、特色あるまちづくりが各地域の自主性に委ねられており、市には、新たなまちづくりのための施策が求められています。常総市議会は、市民の代表として選出された22人の議員が、今まで以上に市民の声を行政に反映させ、誰もが誇りの持てる住みたいまちづくりの実現に取り組んでいきます。



■常総市歴代正副議長

(敬称略)

議長	就任	離任	副議長	就任	離任
初代 鈴木 恒義	平成 18 年 1 月 17 日	平成 19 年 4 月 30 日	初代 篠崎 孝之	平成 18 年 1 月 17 日	平成 19 年 4 月 30 日
2代 山本 幹男	平成 19 年 5 月 15 日	平成 21 年 5 月 14 日	2代 篠崎 正己	平成 19 年 5 月 15 日	平成 21 年 5 月 14 日
3代 中島 亨一	平成 21 年 5 月 14 日	平成 23 年 4 月 30 日	3代 吉原 光夫	平成 21 年 5 月 14 日	平成 23 年 4 月 30 日
4代 草間 正詔	平成 23 年 5 月 16 日	平成 25 年 4 月 21 日	4代 遠藤 正信	平成 23 年 5 月 16 日	平成 25 年 5 月 14 日
5代 岡野 一男	平成 25 年 5 月 14 日	平成 26 年 9 月 28 日	5代 茂田 信三	平成 25 年 5 月 14 日	平成 27 年 4 月 30 日
6代 遠藤 正信	平成 26 年 9 月 29 日	平成 27 年 4 月 30 日	6代 中村 博美	平成 27 年 5 月 14 日	在任中
7代 風野 芳之	平成 27 年 5 月 14 日	在任中			

ま | ち | の



水海道千姫まつり
(4月)

4月

さくらまつり

水海道あすなろの里で毎年開催。ソメイヨシノをはじめとする約400本の桜が咲き、花見の名所の1つとなっています。イベントも多彩で、大勢の家族連れが訪れます。



石下将門まつり
(8月)

5月

子どもまつり

水海道あすなろの里と石下総合運動公園で交互に開かれます。市子ども会育成連合会の主催。初夏の日差しの中、ミニ運動会やゲームなどでにぎわいます。



市中学生議会
(8月)

7月

ほたるの誘い

ホタルを自然の中で鑑賞するイベント。水海道あすなろの里で毎年開催され、ホタルは近隣小学校の児童が幼虫を飼育後、水田に放流します。

水海道祇園祭

水海道駅近くの目抜き通りで開かれ、市内11町会と市内外からのみこしが集結します。みこしと山車が一カ所に集まる「突き合わせ」が見どころです。

石下祇園まつり

石下中心市街地の目抜き通りで開かれる。2町会のみこし、山車、子どもみこしが繰り出し、市無形文化財指定の「とんだやばやし保存会」子供連がおはやしを披露します。



常総市ふるさとの秋まつり
(10月)

8月

常総きぬ川花火大会

1949(昭和24)年、関東花火競技大会として始まり、2010(平成22)年にはテレビ番組の「全国人気花火大会ベスト15」で8位に入るなど全国的にも有名な花火大会。

石下将門まつり

平将門生誕の地である石下地区の盆踊りで毎年1,000人を超える地元住民が参加、地元に伝わる「のろばか踊り」などを楽しく踊ります。

中学生議会

市内の中学生が議員となり、市政や議会の役割を学びます。市議会議場を使って生徒が身近な課題などについて市の執行部に質問します。



ふくし祭り
(10月)

9月

大塚戸の綱火(一言主神社)

市に伝わる民俗芸能で、保存会メンバーが人形を操る別名からくり綱火。一言主神社境内で開かれ、県の無形民俗文化財に指定されています。

歳 | 時 | 記

10月

市民文化祭

10月から11月にかけて市内で開催される文化祭。舞台、文芸、展示、茶華道、囲碁、映画、学校、まつりに分かれています。

常総市ふるさとの秋まつり

水海道あすなるの里を会場に、フリーマーケットやスポーツゲームなどが開かれ、さまざまな催しで秋の一日を楽しむイベント。

ふくし祭り

「受ける福祉」から「参加する福祉」への理解を深めようと市社会福祉協議会が毎年開催。福祉体験スタンプラリーなど多彩な催しがあります。

11月

常総ふるさとまつり

旧石下町時代から「農業・商工まつり」として多彩なイベントを繰り広げています。小・中学生や市民団体なども参加し、バザーや模擬店も豊富です。

篠山木挽き唄全国大会

石下地区を発祥とする郷土民謡・篠山木挽き唄を継承しようと市などが主催し、予選会と決選会で争われます。県内外の民謡愛好家が自慢ののどを競います。

親子deいきいきスポーツフェスタ

石下総合運動公園を会場に、親子マラソン・いきいきマラソンや体験型のスポーツ enjoy コーナー（陸上、ハンドボールなど）を始め、親子で参加するイベントも盛りだくさんです。

1月

はたちのつどい

本市の成人式。地域交流センターに晴れ着やスーツ姿の新成人が集まり、実行委員会主催の式典で晴れやかな門出を迎えます。

消防出初式

消防関係者約500人が参加し、地域消防の誓いを新たにします。地域交流センター東側で開かれます。

スポーツ少年団駅伝大会

旧石下町の時代から毎年開催されています。市内外のスポーツ少年団の子どもたちが、仲間や家族らの声援を受け、厳しい寒さを吹き飛ばす力走を見せます。

2月

長塚節文学賞表彰式

本市出身の歌人・小説家の長塚節を広く顕彰しようと毎年開催、短編小説、短歌、俳句の優秀作を表彰しています。



第19回篠山木挽き唄全国大会



親子deいきいきスポーツフェスタ
(11月)



はたちのつどい
(1月)

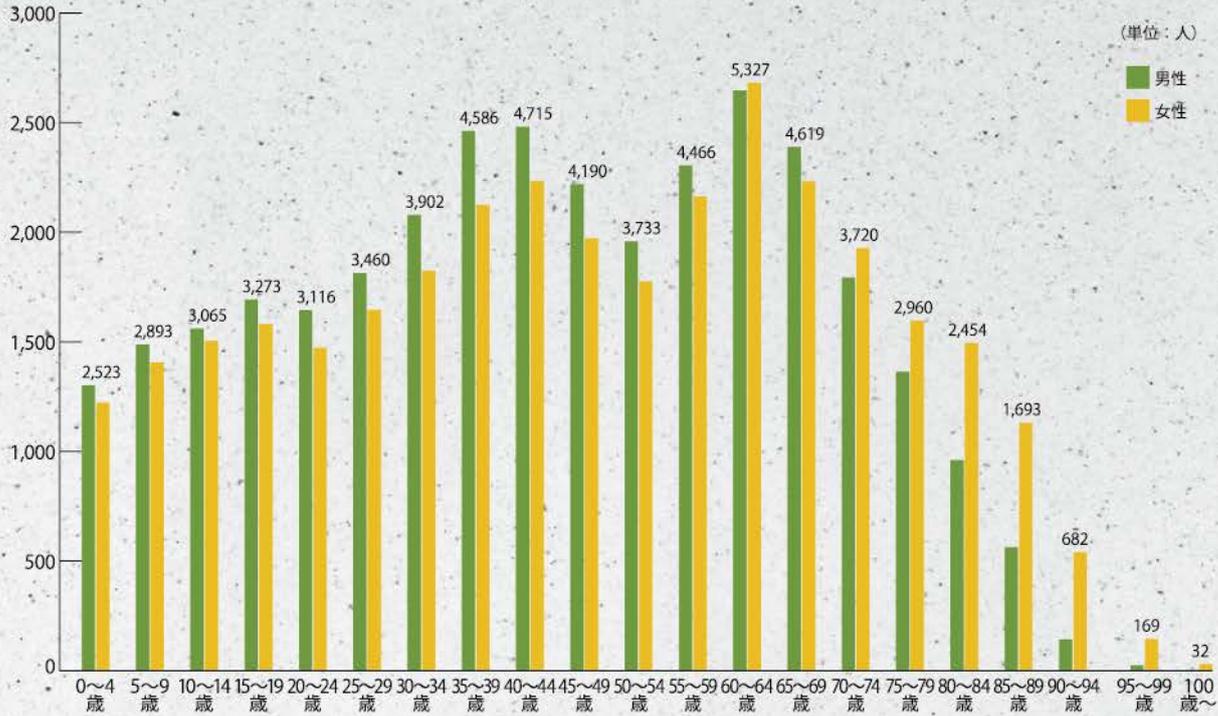


消防出初式
(1月)



スポーツ少年団駅伝大会
(1月)

男女年代別人口（平成26年4月1日現在）



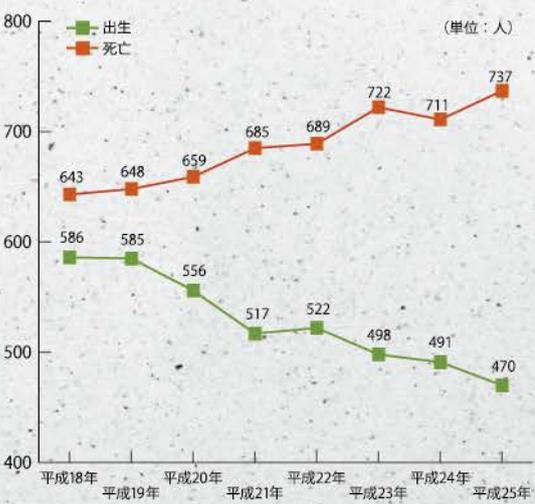
資料：住民基本台帳

人口と世帯の推移



※平成17年の人口と世帯数は旧水海道市と旧石下町の合計。平成18年より常総市

人口動態の推移



社会動態の推移



資料：常住人口調査

■農業の動向

	水稲	麦類	大豆	野菜	
				はくさい(秋冬)	きゅうり
作付面積	3,520	599	76	155	35
収穫量	19,700	1,440	134	11,400	2,073

平成24年～平成25年

資料：茨城農林水産統計年報

■工業の動向

(単位：万円)

	事業所総数	従業者総数	製造品出荷額等
平成17年	315	13,894	56,649,230
平成18年	306	14,232	59,566,204
平成19年	298	13,746	59,759,087
平成20年	313	13,745	48,810,296
平成21年	278	11,860	34,660,069
平成22年	263	12,099	39,619,997
平成24年	256	12,101	39,469,072

資料：工業統計調査

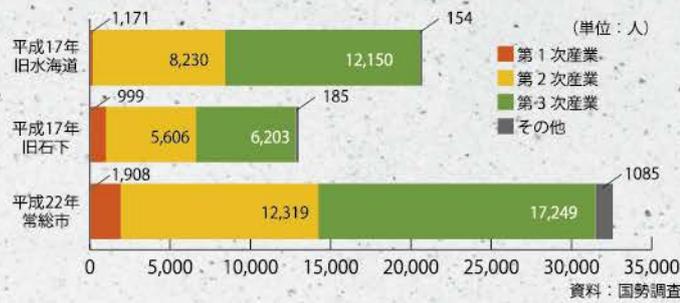
■商業の動向

(単位：万円)

	事業所総数	従業者総数	年間販売額
平成6年	1,103	5,154	14,204,205
平成9年	1,029	4,785	13,038,197
平成14年	929	4,861	10,561,197
平成16年	920	5,214	11,772,941
平成19年	872	4,735	11,644,936

資料：商業統計調査

■産業別就業者人口



■保育所数および児童数

年次	施設数	児童数	
		総数	
平成26年	13	941	
市立	6	468	
私立	7	473	

■幼稚園数および園児数

(単位：組、人)

年次	園数	組数	園児数		
			総数	男	女
平成26年	9	45	875	456	419
市立	5	18	301	164	137
私立	4	27	574	292	282

資料：学校基本調査

■地目別面積

(平成26年
1月1日現在)



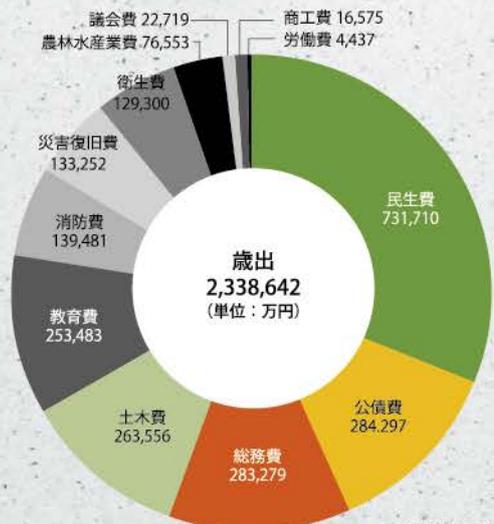
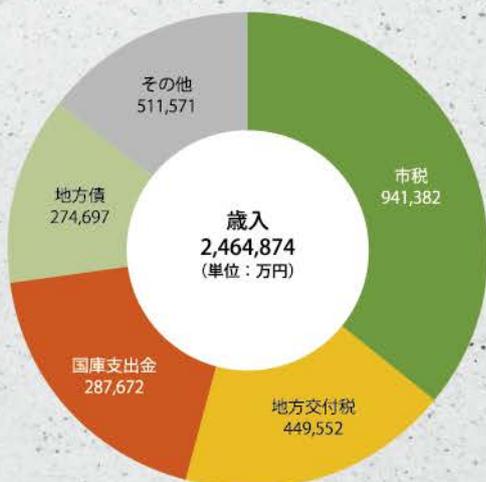
■小学校数および児童数

年次	学校数	学級数	児童数		
			総数	男	女
平成26年 市立	14	164	3,438	1,779	1,659

■中学校数および生徒数

年次	学校数	学級数	生徒数		
			総数	男	女
平成26年 市立	5	62	1,735	883	852

■平成26年度歳入・歳出決算額



■歴代市長

(敬称略)

区分	名前	就任年月日	退任年月日
常総市	初代	遠藤 利	平成 18 年 1 月 1 日
	2 代	杉田 光良	平成 19 年 5 月 1 日
	3 代	長谷川 典子	平成 20 年 8 月 3 日
	4 代	高杉 徹	平成 24 年 8 月 3 日
旧水海道市	初代~2 代	須田 誠市	昭和 29 年 7 月 10 日
	3 代	横田 新六郎	昭和 34 年 5 月 1 日
	4 代~9 代	落合 庄次	昭和 38 年 5 月 1 日
	10 代~11 代	神林 弘	昭和 62 年 5 月 1 日
旧石下町	初代~2 代	関井 仁	昭和 29 年 10 月 1 日
	3 代	草房 鼎	昭和 31 年 7 月 19 日
	4 代~6 代	関井 仁	昭和 35 年 7 月 19 日
	7 代~11 代	松崎 良助	昭和 47 年 7 月 19 日
12 代~15 代	飯塚 富雄	平成 4 年 7 月 19 日	

■常総市のあゆみ

西暦	年号	月	あゆみ
1954	昭和 29 年	7 月	水海道町、豊岡村、菅原村、大花羽村、三妻村、五箇村、大生村、坂手村が合併し、水海道市誕生
		10 月	石下町、豊田村、玉村の一部、岡田村、飯沼村が合併し、石下町誕生
1955	昭和 30 年	3 月	旧真瀬村の一部（現・東町）、旧十和村の一部（現・水海道川又町）が水海道市に編入
1956	昭和 31 年	4 月	菅生村、内守谷村が水海道市に編入
1969	昭和 44 年	7 月	水海道市民憲章制定
1984	昭和 59 年	7 月	「市の木・花・鳥」を制定（木：カシ 花：サクラ 鳥：ウグイス）
1994	平成 6 年	4 月	石下町民憲章制定
2003	平成 15 年	11 月	石下町町制施行 50 周年記念式典開催
2004	平成 16 年	11 月	水海道市市制施行 50 周年記念式典開催
2005	平成 17 年	1 月	水海道市・石下町合併協議会設立
		3 月	常総市まちづくり計画（新市建設計画）策定
2005	平成 17 年	12 月	石下町閉町記念式典開催
2006	平成 18 年	1 月	水海道市、石下町が合併し、常総市誕生
		2 月	常総市誕生記念式典開催
		4 月	県のまちづくり特例市の指定を受ける
2007	平成 19 年	3 月	「常総市行政改革大綱」と「常総市行政改革集中改革プラン」を策定
2008	平成 20 年	3 月	「常総市総合計画」を策定
		4 月	県内自治体初のネーミングライツ導入
		5 月	石下総合運動公園全面供用開始
		6 月	故杉田市長の合同葬が行われる
2009	平成 21 年	6 月	消費生活センターを新設
		10 月	常総市予約型乗合交通の運行開始
2010	平成 22 年	8 月	石下新庁舎開庁
2011	平成 23 年	3 月	東日本大震災（常総市も被災）
		10 月	放射能対策課を新設
2012	平成 24 年	4 月	常総市観光物産協会マスコットキャラクター「千姫ちゃま」が 4 月 15 日常総市民となる
2013	平成 25 年	3 月	常総市役所第三分庁舎新設
		4 月	産業拠点整備課を新設
2014	平成 26 年	11 月	本庁舎開庁、旧新庁舎を議会棟として使用開始
2015	平成 27 年	9 月	関東・東北豪雨により、鬼怒川が若宮戸で溢水、三坂町の堤防が決壊し市域の 3 分の 1 が浸水

常総フィルムコミッション ロケ実績

常総フィルムコミッションは旧水海道市当時の2003（平成15）年6月に設立されました。

映画やテレビドラマなどのロケを誘致し、市内で撮影された作品は2013（平成25）年に1000本を突破しました。

坂野家住宅をはじめとする市内のロケ地と、撮影された主な作品を紹介します。



●市の花・市の木・市の鳥



【市の木】カシ

古代から、当地方に自然林として多く生えていた照葉樹であり、常緑で美しく力強い樹相である。そして、防風、防火等のため生垣として植えられ、更に堅く粘りある材質は、農耕用具等の用材にも多く用いられ古くから生活に密着している。



【市の花】サクラ

サクラといえば、日本の花の代表で、その花の美しさゆえに親しまれている。特に、当地方の台地に多く自生するヤマザクラは、古くから農耕のシンボルとして、農民の生活に深いつながりを持ち大切にされてきた。また、「八間堀のサクラ(ソメイヨシノ)」として市民から親しまれていたサクラが無くなり、その復活の声が多く、再び当市をサクラの名所にする願いを込めている。



【市の鳥】ウグイス

ウグイスは、初春を伝えるきれいな鳴き声で、古くから詩歌にもよまれてきたなじみ深い鳥である。自然環境が良い当地方では、市街地でもその鳴き声がよく聞かれる。このように美しい環境と調和のとれた自然都市を目指す当市にふさわしい。

●常総市民憲章

わたくしたちは、常総市民であることに誇りと責任を感じ、住みよいまちを築くために大きな希望をもって、ここに市民憲章を定めます。

- 一 自然を愛し、美しいまちをつくりましょう。
- 一 お互いに助けあい、明るいまちをつくりましょう。
- 一 元気で働き、楽しいまちをつくりましょう。
- 一 きまりを守り、清らかなまちをつくりましょう。
- 一 文化を育て、豊かなまちをつくりましょう。

●常総市の位置



発行 常総市
〒303-8501
茨城県常総市水海道諏訪町3222番地3
電話 0297-23-2111(代表)
<http://www.city.joso.lg.jp/>

平成28年3月 発行
制作 茨城新聞社